

平成 30 年度 木祖村立木祖中学校グランドデザイン

生徒の姿

- 言われたことは素直に受け止めることができる。
- 歌に積極的に取り組むなど、諸活動に一生懸命取り組む。
- やや難しい課題に直面したとき粘り強い追究ができなかったり、少人数集団での固定された生活のため集団への不適応が見られたりする生徒も何人かいる。
- 話をしっかり聞いて、考えや思ったことを自分の言葉で話すといった表現力に弱さがみられる。

◇学校教育目標

せいめい

生命を大切にし 自ら伸びようとする生徒

村民の学校教育に寄せる強い願いや期待

昭和 22 年開校、「親はボロをまともな子どもの教育のために」と昭和 55 年校舎改築中庭の巨石「野人の理想」・・・どっしりとした人間になってほしい。権力におもねることなく、堂々と自己の確立を目指してほしい。

目指す生徒の姿

- ふるさとを愛し、他と協調しながら物事を進めることができる生徒 **(思いやる心)**
- 自らを律し、健康でたくましく生活するための心と身体を備えた生徒 **(鍛える心)**
- 自ら課題をもって粘り強く追究し、進んで表現することができる生徒 **(自ら学ぶ心)**

本年度の重点

- 歌声・清掃・挨拶** ・「自ら進んで」「気持ちを込めて」「気持ちを合わせて」取り組む姿。
→ 自主性、協調性、協働、感謝などの価値や大切さを自覚できるようにする。
- 先見考動** ・規律ある生活の習慣化。自律心の育成。
→ 開始時刻 3 分前を目安に行動を起こし、次の活動の準備ができるようにする。
- 学び合う授業** ・自らの考えや思いを率直に表現する姿。友と意見交換する中で考えを広げ深める姿。
→ 伝え合う場面、かかわり合う場面を積極的に位置づける。ペアやグループでの学習。

思いやる心

1 歌声・学級づくり

- 歌声づくりによる学級づくり（協調、共感等）
- 学級目標具体化のための手だて（自主、自律、協力、協働等）
- はじめある学校生活（師弟同行、凡事徹底）
 - ・朝読書指導 ・無言清掃指導
 - ・入退場指導 ・給食指導

2 道徳教育・人権教育・生徒指導

- 道徳教育の積み重ね（時間の確保と指導内容の研究）
- 地域素材を生かした道徳教育、かかわり体験活動と関連づけた道徳教育の推進
- 日常的な人権教育（日常生活における人権意識、人権感覚、自己肯定感の高まり）
- 学年通信等を利用した「深まり」の発信
- 「教育相談日」の設定、「教科相談」の実施
- 「いじめアンケート」等各種アンケート・検査による生徒の人間関係の把握

鍛える心

1 生徒会活動・部活動

- 平成30年度生徒会スローガン
「飛笑(とわ)～ one for all all for one～」
- 「歌声づくり」「あいさつ」「清掃」「先見考動」の継続・発展
- 日常生活を一層大切にする
- 「知・徳・体」のバランスのとれた部活動

2 体験的学習・異年齢での学習

- 事前・事後学習を充実し、価値に気づいたり価値の深化を図ったりする取組
〔修学旅行 平和学習 臨海（登山）学習 職業体験学習等〕
- 様々な「人ものこと」とのかかわり（自分の生き方やあり方を考える）

3 生き方学習としての進路指導

- 進学や働くことの意義への理解を深め、自分の進路を具体的に思い描けるようにする
- 地域や先輩の話聞く会など、多面的な学びの機会の設定

自ら学ぶ心

1 学習指導の充実

- どの子どもも分かる授業に向けたユニバーサルデザイン化
 - ・三観点 ・板書や指示 ・視覚化
 - 学び合う授業づくり
 - 「授業に向かう姿勢づくり」「家庭学習の習慣形成」
 - 研修やアンケート等による授業改善
- 研究テーマ「気づく つなぐ 分かり合う」

2 共育を基盤にした学びの環境づくり

- 保護者、地域の方々への情報発信や連携（学年通信、学校便り等による学校の願いと実践、その成果と課題等）
- 木祖村コミュニティースクールの活動や奉仕活動等を通し、地域と共に歩む学校を目指す

3 特別支援教育の充実

- 特別支援教育コーディネーターを核にした校内特別支援体制づくり
- 普通学級在籍の軽度発達障害や悩みを抱える生徒への支援 研修会の実施

『人ものこと』とのかかわり

家庭・地域で学校と共に子どもを育てる

PTA・地域との連携

- 地域行事等を通して、心を通わせ、子どもを知るとともに、健やかな成長を支援する。
- 学校行事、参観日等への積極的参加を通して、学校への理解を深める。
- 基本的な生活習慣の定着を図るとともに家庭学習・読書を習慣化する。
- 携帯電話、インターネット等の危険性について学び、指導を行う。

学校、家庭・地域による学校評価の実施

- 学校・学年・学級だより等により、学校教育の方針や内容、子どもの取組等を伝える。
- 学校自己評価（教職員による評価シート、保護者へのアンケート）を実施し、結果を公表する。
- 学校、家庭、地域で成果と課題を共有し、改善に向けて共に取り組む。